

議 事 録 （ 概 要 ）

件 名	第 6 回米子駅周辺活性化連携会議		
日 時	令和 6 年 8 月 1 日（木） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分	場 所	米子市役所本庁舎 4 階 4 0 1 会議室
出席者	別紙 出席者名簿のとおり		

（協 議 概 要）

【部会報告】

- (1) 駅周辺整備検討部会について（米子市から報告：資料 1）
- (2) 駅周辺活性化検討部会について（米子市から報告：資料 1）
 - ・質疑、意見なし。

【議事】

- (1) 米子駅北広場及び米子駅周辺における整備について

①米子駅北広場整備について（米子市から報告：資料 2）

②駅南側における取組の進捗状況について（米子市から報告：資料 3）

- ・米子駅北広場の整備が本格化し、工事に伴う交通規制が始まる。市民の皆様、企業者の皆様にしっかり周知をしてご理解とご協力をいただくことが何よりも肝要であり、連携会議の皆様にもお力を寄せていただきたい。仮設のコンビニエンスストアの跡地も新しく広場として利活用が可能になる。ここをどのようにしつらえて使っていくのか、引き続き皆様と協議しながら知恵を出していきたい。米子駅目久美町線の整備については、財源を確保して可能な限り今年度中の整備完了に向けて進めていきたい。東山公園の新体育館は PFI 事業者が決まり、現在旧体育館の解体、事業者による設計等の業務が進んでいる。米子アリーナは令和 8 年度末完成予定であり、動線の整備を可能な限り進めていきたい。以前、中原所長をはじめ県の皆さんと実際に現地を歩いて確認したが、現在のところは旧県道を中心とした整備に向けて、具体的な設計等を始めていきたいと考えている。新しい人の流れを作るために必要な環境整備を着実に進めていきたいのでご協力をいただきたい。（市：伊澤副市長）

➡駅北広場のタクシーロータリーの閉鎖期間が長いため、我々もご案内など可能な限り協力していきたい。コンビニの跡地は、がいなロードからの景観が非常に良い場所なので、ぜひ憩いの場となるようなしつらえができればと思っている。米子アリーナへの動線については、ぜひ協力していきたい。東山公園駅も数十年前に整備済みであり、徒歩と列車を組み合わせでご利用いただきたい。（JR：和田副支社長）

➡駅北広場のタクシーロータリーの長期閉鎖を非常に懸念している。工事に伴う規制は仕方がないが、周知をしっかり協力していきたい。9 月に手話パフォーマンス甲子園、10 月にねんりんピックを開催予定で、その時は非常に多くの方が来られる。公共交通機関を使い色々なところに行っていただきたい思いがあるので、駅の北側に臨時のタクシー乗り場の設置の検討をお願いしたい。駅の南側では、がいなロード開通後、県道米子環状線から駅への入口が非常に分かりにくいという声があったため、看板の設置と右折レーンの道路標示を行っていく予定としている。（県：中原西部総合事務所長）

➡駅北広場の工事について、工期が長いと感じる。工程等について施工業者とよく調整して工期の短縮をしていただきたい。（商工会議所：森田専務理事）

- ・各種提案内容についてしっかり対応させていただく。臨時のタクシー乗り場についてはねんり

んピックのプロジェクトの方ともよく相談しなければいけない。南側のバス駐車場から選手団のバス、北側のだんだん広場前から会場循環の臨時バスを出すことも検討していると伺っている。可能なスペースを使いながら臨時のタクシー乗り場ができるかどうか検討していきたい。

(市：佐々木総合政策部長)

- ・工期については施工業者と工程の調整をしており、改めて規制をかける期間を短縮できるところがないか検討させていただきたい。(市：都市整備課長)

(2) 米子駅周辺における取組について

①歩いて楽しいまちづくりの推進に向けた取組状況について(米子市から報告：資料4)

②駅前通りを活かした今後のまちづくりについて(米子市から報告：資料5)

③駅前通り周辺における公共空間利活用に関する実証実験について(米子市から報告：資料6)

④だんだん広場の利用状況について(米子市から報告：資料7)

⑤米子駅周辺及び関連イベント一覧(R6 県関係)について(鳥取県から報告：鳥取県資料)

- ・駅前通りの車線の減少を視野に入れた歩行空間拡張のテーマについては以前から議論していたが、今年は実証実験という形で取り組んでいきたい。特に道路管理者の鳥取県にはご協力をいただきたいと思っている。鳥取県には資金面でもご支援いただき感謝している。整備ありきではなくて、歩行空間を広げた場合にどういう利活用が可能になるか、どういう可能性があるのかを交通への影響の検証も含めてまず1回やってみたい。可能であれば公共交通ふれあいフェスタとタイミングを合わせて実施したいと思っている。いずれにしても、交通規制関係等について関係当局と調整して向かっていきたい。初期はイベント等で使っていくことになるが、空間を整備した後は日常として使うことになる。そのため、多くの民間事業者、市民、関係者の皆様がどう使えるのかを皆で実感しながら取組を進める必要があると考えている。だんだん広場や駅前周辺では様々なイベントが集中的に実施されているが、行政だけでイベントをやるのは当然限界がある。民間主導で色々なことをやっていただくことが肝要だと思っている。令和7年3月に米子市が新市になって20年の節目の時期を迎えることから、引き続き様々な催事イベントを開催していきたいと考えており、民間事業者の皆さんを中心とした利活用の主体がしっかり根付いていくことに視点を置いて取組を進めていきたい。現在、駅前に限らず角盤町などでも民間の様々な動きが出てきており、先般はがいなロードなどでエンタメストリートが開催された。このような動きが民間側で出てきていてとても好ましいし、望むべき姿ではないかと思う。商工会議所ともしっかり力を合わせながら、民間の皆様が活用しやすい環境づくりや初期段階での応援をやっていききたい。(市：伊澤副市長)

➡駅前通りのウォークابل推進の実証実験は、県は道路管理者として積極的に協力をさせていただこうと思っている。道路占用許可の調整段階に早く進むようにご協力をいただきたい。警察との協議も進んでいるということだが、実証実験は何より安全性の確保が大切だと思うので、警察やバス事業者、タクシー事業者等の関係者との調整を続けていただき、事故のない安全な開催をお願いしたい。実証実験について、イラストもあって非常にイメージがしやすい。効果検証のための調査では、空間を楽しまれた方だけでなく、様々な影響がある方々の意見をしっかりとっていただきたい。この空間の実現のためには、様々なご理解とご協力が必要ということは言うまでもなくて、影響を受ける方のマイナス意見も大切であり、そこを解決してこそだと思う。だんだん広場については米子市に管理移管してから柔軟な運用で利活用が進んでいるということに改めて感謝する。(県：中原西部総合事務所長)

➡駅前通りの減車線化は商工会議所青年部が提言したので、商工会議所としては嬉しく思う。計画段階で色々な人の意見を聞いて実施していくこと、それにより実証実験が市民の皆さん

に認知されるということが大事だと思う。商工会議所青年部も提言に当たって色々な事例を調査しているので、ぜひとも前段の計画段階での参画を考えていただきたい。（商工会議所：森田専務理事）

- ➡実証実験とタクシーロータリーの閉鎖期間が同時期のため影響があると思われる。周知期間が非常に大事であり、市民の方が認知するには時間がかかると思うので、しっかりと対応していただきたい。実証実験の時間が21時までとあるが、金曜日、土曜日は実験の片付けなどで飲食店ご利用のお客様が動きにくくなるのではないかと懸念している。21時が適正な時間なのかを検証する必要があるのではないかなと思う。（JR：和田副支社長）
- ・計画段階からの参画ということは非常に大切なことなので、何らかの協議会を立ち上げるなど皆様方の意見を集約しながら取組を進めていきたいと思っている。アンケートについては空間の利用者は当然ながら、駐車場利用の方、沿道の方、一本入った所で影響を受ける方などにも行いたい。マイナスの影響はどの程度あるのか、この辺りの確認も丁寧に進めていく必要があると思っている。安全性の確保にも留意して対応していきたい。実証実験の時間について、週末はナイトタイムエコノミーということで多くのお客様がいらっしゃる時間なので、時間帯の設定も含めて柔軟に対応したい。実証実験に向けて、計画段階から関係機関との調整を含めて進めていきたい。（市：佐々木総合政策部長）

(3) 歩いて楽しいまちづくりについて

①まちなかにおける歩いて楽しいまちづくりのイメージについて（米子市から報告：資料8）

②だんだんバスにおけるキャッシュレス決済の導入について（米子市から報告：資料9）

- ・どんな人の流れが生まれてくるのか、それをどう生かそうとしているのかを、できるだけイメージできるようなものを作りたい。以前にUR都市機構からご提示いただいたイメージなども参考にしながら、今、まちの資源として生まれているもの、資源になりつつある動き、そしてそこをつなぐ動線を現時点で想定されるものをできるだけ落としてみた。素案と書いてあるとおり、完成度が高いものではない。こういったものを土台にしながら共通認識を持ってまちづくりのイメージができればと思う。米子市公会堂は非常に貴重な資源であるが、週末を中心に残念ながら空いている日が多い。それではもったいないので、指定管理者の米子市文化財団と話し合っテナイトタイムレコードの企画を始めた。角盤町エリアのウォークブル事業の進捗と合わせて、相乗効果を図りながら角盤町エリアの滞留空間の魅力を高めていく取組を様々な資源を生かす形で進めたいと思っている。キャッシュレスについては、県の協力をいただきながら、全県も視野に入れながら西部地域においてはだんだんバスへの導入となった。キャッシュレスの様々な取組の動きもよく見定めながら使いやすいものにしていくことが肝要と考えている。（市：伊澤副市長）

- ➡前回、前々回の会議で、民間がまちづくりに参画していくためには、まちづくりの方向性をわかりやすく見える形で示していただく必要があると申し上げていた。これからブラッシュアップはしていかないとはいえないと思うが、本日はこのようなイメージをお示しいただき感謝している。商工会議所が今取り組んでいる米子バルという企画がある。はしご酒をやっテ夜の街を歩いていただく企画で、昨年までは角盤町と駅前を同日にやっていたが、今年度は駅前周辺エリアと角盤町、朝日町のエリアを別の日にやろうと考えている。どちらかにお客様が集中することなく分散にもつながるし、集中的にPRする上で両方で別日でやったほうがいいということになった。米子はやはり朝日町に活気がないとにぎわいが出てこないのて、朝日町の方にも参加していただきたいと思って考えた。商工会議所としても歩いて楽しいまちづくりを一生懸命やるのでよろしくお願いしたい。（商工会議所：森田専務理事）

➡米子は鉄道とバスを合わせた移動が非常にしやすい条件にあり、だんだんバスへの IC 導入も非常にいいタイミングではないか。鉄道は既に IC を導入しているため、バスに IC が導入されればより活用ができるようになるのではないかと。なお、昨年 4 月にバスへ IC を導入した鳥取市は、導入後の利用率 10%を超えたとのこと。鉄道に IC が導入されている米子市はより条件が良いため、利用率が非常に高まると思っている。(JR：和田副支社長)

➡キャッシュレスの推進というのは、令和 5 年に JR、県内各市町村、県とで「鳥取県における持続可能な地域公共交通の実現及び地域の活性化に関する連携協定」を締結している。この中にキャッシュレス化も取組項目として入っており、県としても連携して支援をさせていただきたい。キャッシュレスが進むと便利なのがたくさんあるので公共交通機関の利用促進につながると考えている。本日お示しいただいたまちづくりのイメージについて、これまでエリアごとのエリア内のイメージ図はあったが、全体像をお示しいただいたことで人の流れの可能性のイメージがどんどん広がっていき、議論がまた深まるのではないかと期待している。(県：中原西部総合事務所長)

- ・こういった共通認識を図ると見えてくるものがある。見える形のものを前に置きながらみんなで一緒に議論することが大事。民間事業者の皆さんに色々な経済活動をしていただくことが必要である。やはり人が歩くところに商売があると思うので、そのためにもこういった絵をお示しして、様々な意見を聞いていくことが必要ではないかと思っている。(市：伊澤副市長)

(4) その他

①将来ビジョンの検討推進に係る意見交換会及び検討会議の進捗について

(UR都市機構から報告：UR資料)

- ・UR都市機構とは色々な意見交換等をさせていただいており、引き続き連携を図っていきたい。(市：佐々木総合政策部長)

②その他の提案など

- ・その他、紹介、提案事項などありますか。(市：佐々木総合政策部長)

➡駅前通りの整備について、今後も実証実験があり全面的に協力する方針ではあるが、その進め方について意見をさせていただきたい。駅前通りは災害時の緊急輸送道路であり、原子力災害時には避難路となる。整備に関しては、その議論を避けては通れない。技術的にはハードルが高いのが現実である。3車線化による空間づくりの提案が実現できれば望ましいと思うが他の選択肢はないのか。例えば、低木の街路樹を撤去するだけで空間を上手く作れたり、店舗をセットバックすることによって空間が作れたりしないか。選択肢は3車線化だけなのか、様々な選択肢を検討していくのか、その辺りも議論をしていただきたい。(県：中原西部総合事務所長)

- ・今年はまず実証実験をしっかりと行っていくことから始めていきたい。いずれにしても大きな影響があると思っている。姫路、なんば駅前、御堂筋などの都市部では、歩行空間の拡大がドラスティックに進んでいる。その際に、自動車交通をどうするのかはしっかり議論されているだろうし、代替道路も確保されていると思う。問題は、駅前通りを滞留空間として資源化していくことをどう実現できるのかであり、民間の店舗のセットバックは簡単にできないし、最有力の方法が例えば減車線化というご提言だろうと思っている。だが、それ以外の選択肢が全くないわけではないし、逆に言うと、減車線化できるまでは何もしないということでは絶対にならないと思う。減車線化という一つの姿に向かうまでにできることはたくさんある。いずれにしても、滞留空間を備えた駅前通りを作っていくことは、そこをどう使いこなせるかということでもあるので、使い倒せる資源として、駅前通りをどう整備していくかを

皆で一緒に考えていきたい。当然、交通問題という課題が出てくる。バイパス的な道路が必要であるという選択肢も出てくると思われる。非常に時間がかかることではあるが、道路整備の問題等も含めて一緒に考えていきたい。そして皆で一緒に考えたことが、日常使いにつながると思っている。(市：伊澤副市長)

- ➡市の意見には賛同しているので、一緒にやらせていただきたい。平常時には一般の方々はあまり関心がないと思うが、災害時に電柱が倒れて通行できない可能性があるとか、そういったことも含めて緊急輸送道路は様々なツールが設定してある。行政の責任として考えないといけないことなので意見として出させていただいた。今後も共に検討させていただきたい。

(県：中原西部総合事務所長)

- ➡新駅舎およびがいなロードができて以降、自動改札を通られるお客様は約 15%増加、100 キロ圏内の短い距離を移動されるお客様の利用も約 15%増えており、これまでの取り組みの成果と考えている。この四者会議は非常に素晴らしい会議だと思っており、引き続き皆さんと協力してまちづくりを行っていきたい。(J R：和田副支社長)

- ・本会議の今後の進め方について、前回の会議での合意をいただいたところであるが、今後も部会含めて議論を深めさせていただきたい。北側の駅前広場の規制に伴う様々な対応の検討、駅前の歩行空間拡大の実証実験を丁寧にやっていくこと、更にビジョンについてこれからより議論を深めて年度内に一定のものを打ち出していくこと、この点について共有ができた。

(市：佐々木総合政策部長)

- ・様々なハード整備事業が展開しているが、それぞれの事業にビジョンがないわけではなく、当然一定のビジョンのもとに進んできている。がいなロードについては構想から実現までに時間がかかったため、まちづくりに与えるインパクトや、将来的にまちづくりにどんな役割を果たしていくのが非常に見えづらくなっていたのではないかなと思う。ビジョンがなかったわけではないが、それを皆が見える形にできていなかった。今やっとその取組が少しずつでし始めたので、みんなで共通認識する形にすることによって次の課題が見えてくるのではないかな。これは私見ではあるが、歩いて楽しいまちづくりの真髄は、豊かな時間消費ができるまちと解釈している。まちを歩いてどこかで滞留して、音楽、食事、景観などを楽しんで時間を消費できるまち。我々が目指すのは、今あるまちの資源を最大限に使って時間消費をどのようにしていくのかということ、行政、事業者の皆さん、経済関係団体、市民の方と一緒にまちづくりのテーマとして考え、それをハード整備にフィードバックする。こういったことの繰り返しではないかなと思っている。そして最終的に、経済の活性化、商売繁盛のまちづくりとなり、それが更なる賑わいと時間消費につながって、それがまちの幸せにつながる。そのことを皆さんと一緒に実現していきたいと思う。この連携会議はそのコアメンバーだと思っているので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。(市：伊澤副市長)